

付帯意見

1. 地域館の運営に関する答申であるにもかかわらず、どのような地域館を目指すのか答申の中で明らかにされていない。鎌倉ならではの望ましい地域館のあり方について協議を進め、今後の地域館運営の指針となるようなものを早急に確立することが求められる。
2. 答申に沿って地域館の業務やサービスの見直しを行い、非常勤嘱託員中心の運営に移行することによって当該地域のサービス低下と地域間格差を招く恐れがある。中央館のみならず鎌倉市図書館全体でそれをカバーする支援体制を確立する必要がある。
3. 正規職員 1 名の配置となった地域館では正規職員が不在の日あるいは時間帯が生じるのは避けられない。図書館はいつでも誰でも無料で利用できる市民に最も利用される公共施設のひとつである。危機管理面においても事件、事故、災害に即応できる万全の体制を構築する必要がある。
4. 答申では非常勤嘱託員に対する継続的な研修の実施がうたわれているが、研修は勤務時間内に行い、効果的な研修のためには必要に応じて外部研修の機会も考慮すべきである。
5. 答申ではサービス向上についていくつかのことが記されているが、予算と人員の確保なしには実現できないものも含まれており、言葉だけでなく関係部局に図書館の役割をよく PR し真剣に予算増に取り組み、あわせて必要な人員体制の整備に努力すべきである。
6. 答申ではサービス向上を目的として図書館以外の公共施設などでの本の貸出・返却があげられているが、そこに商業施設であるコンビニの活用が例示されており、読む者に混乱を招く恐れがある。実施に当たっては商業施設ではなく公共施設の活用を優先すべきである。
7. この答申の内容は地域館の運営を大きく変えるものであり、市民生活に少なからぬ影響を及ぼすものと考えられる。早い機会に地域住民への丁寧な説明を行い合意形成を図る必要がある。
8. 諮問では 4 館の地域館を対象にした正規職員縮減の実施スケジュールが組まれていたが、正規職員が縮減されるのが 2 館とする答申では実施スケジュールについて何も示されていない。早急にスケジュール案も答申に加えるべきである。
9. 試行から本実施に移行する際は、公平で客観的な検証作業を行う必要がある。そのためには評価基準を明確にしたうえで、専門家や市民を含む第三者委員会を設置すべきである。